

こんな本を読んできました

この本は書店で働いていた小出さんが本を売るときの思い出が書かれています。

例えば芥川賞や直木賞作品は年に二回来る売り場の大波であり、候補作が出てから決定までの間がまんべんなく本が売れるのだそう。特設コーナーを作り推し続けていた、桜木紫乃さんの『ホテルローヤル』が直木賞を受賞したときの喜びようも書かれています。ほかにもサイン会の裏話やフェアのドタバタ話など盛りだくさん！

「本を手にとってほしい」という気持ちは図書館職員と同じですが、「本を売る」という違う情熱に圧倒されました。読んでいない本は読みたくなるし、読んでいても、もう一度となる困った本です。あ～、小出さんの仕掛けにまんまとはまっちゃう。小出さんのドヤ顔がみえてくるようです。

タイトル あのととき売った本、売れた本
著者 小出 和代
出版 光文社



光文社

呉市の歴史と関わりの深い
「海」に関する
所蔵資料を紹介します。



海の文庫

タイトル 沈没船からみる世界の歴史
著者 アラン・G・ジェイミソン
翻訳 柴田 譲治
発行 原書房

「沈没船」と聞いて皆さんは何を思い浮かべますか？映画の題材にもなったタイタニック号？それとも呉に住む皆さんにとっては、呉で建造され、今も海底で静かに眠る戦艦大和が思い浮かぶでしょうか？名の知られた船からそうでないものまで、多くの船が世界中の海に沈んでいます。

そんな沈没船の調査は、ここ数十年の深海調査等の技術の進化とともに発展してきました。この本では、沈没船調査からわかってきたこと、そしてかつて海で起こった歴史の一端が年代ごとに紹介されています。

沈没船は深海に眠る大きなタイムカプセルだと作者は言います。その言葉どおり、いつか海底から名もなき船が引き上げられ、絵物語だと思われていたものが現実の話として私たちの目の前に現れるかもしれません。それはとてもワクワクすることだと思いませんか？

さあ、本を開いて沈没船が語りかける歴史の海へとダイブしましょう。